

雪国の市場 (昭和6年)

現在の日展にあたる帝展に初入選した作品。通町の朝市を描いたもので、野菜を売る農婦たちと、お高祖頭巾や角巻の女性、箱ぞりの子どもなど、雪国らしい情緒が漂う作品です



旭川暮色 秋田十二景より (昭和14年)

秋田市に今もかかる二丁目橋から旧・土手長町を望んだ風景です。那波家水飲み場や旭川の流れは変わりませんが、丸屋根の県物産館、川筋にあった家並みは姿を消しています。



いろり 秋田風俗十題より (昭和14年)

秋田の冬は囲炉裏端が家族の憩いの場。雪ペラとさんべと呼ばれるわらぐつには雪がまだ残り、子どもは手足を精一杯伸ばし暖をとる。親子の歓談の声が聞こえてきそうな作品です



かまくら (昭和30年) 冬の月夜に照らされた横手のかまくら。ろうそくの明かりがおぼろげに、まるでおとぎの国を見るような美しさです

勝平得之記念館

赤れんが郷土館に、1月6日(土)改装オープン

私は父が漉く紙への
愛着から版画の道に入った。
この紙が尽きても、
また新しい紙に郷土秋田の
風物をかき残す。
それがただ一つの道であり
これを念願としている。

